

接種)」、「24時間電話できる育児相談(24時間電話相談)」、「必要に応じて乳房マッサージもやってくれる家庭訪問(乳房マッサージ家庭訪問)」、「じっくり相談にのってもらえる乳児健診(乳健での育児相談)」、「夫婦とともに育児できるような父親の育児休業(父親の育休)」、「自由な勤務形態」の順に希望が多かった。前回調査と比べ、電話・育児相談リスト、24時間電話相談が減少し、「子ども世帯の経済支援」、「育児休業中の給料保証」、「乳房マッサージ家庭訪問」、「自由な勤務形態」、「職場内の保育所」が有意に増加した。

初経産別にみると、初産婦、経産婦共に「子ども世帯の経済支援」、「夜間小児科リスト」、「一時預かり保育所」が上位3項目であった。初産婦は「24時間電話相談」、「乳健での育児相談」、「分娩施設での育児相談」、「産後、必要な時に何回でも相談に応じてもらえる家庭訪問(必要時の家庭訪問)」など、育児相談や家庭訪問に

関する希望が経産婦より有意に多かった。一方、経産婦は「子ども世帯の経済支援」、「一時預かり保育」、「家事を手伝ってくれるヘルパーを派遣する制度(家事ヘルパー制度)」など、育児労働のサポートに関する希望が初産婦より有意に多かった。

5. 母親の就労別にみた育児支援ニーズ(表5)

有職者では「子ども世帯の経済支援」、「夜間小児科リスト」、「育児休業中のある程度の給料の保証(育休中の給料保証)」, 無職者では「子ども世帯の経済支援」、「夜間小児科リスト」、「一時預かり保育所」が上位3項目であった。

また、有職者は「育児休業中のある程度の給料の保証(育休中の給料保証)」、「乳児保育、延長保育、病児保育などの保育サービス(乳児・延長・病児保育)」、「育児期間中の親に合わせた働き方(短時間勤務、在宅勤務など、自由な勤務形態)」、「職場内の保育所」、「親の就労時

表5 就労別にみた希望する子育て支援

(5つまで複数回答, n=3,852)

| | 平成17年 | | 就労別比較 | | χ ² 検定 | 平成17年 | |
|------------|-------------|-------------|-------|-------|-------------------|-------------|-------|
| | 有職(n=1,166) | 無職(n=2,643) | | | | 合計(n=3,852) | |
| 電話・育児相談リスト | 86 | 7.4% | 273 | 10.3% | ** | 363 | 9.4% |
| 夜間小児科リスト | 579 | 49.7% | 1,490 | 56.4% | *** | 2,088 | 54.2% |
| 情報掲載母子手帳 | 148 | 12.7% | 486 | 18.4% | *** | 642 | 16.7% |
| 24時間電話相談 | 236 | 20.2% | 619 | 23.4% | * | 867 | 22.5% |
| 出産施設の育児相談 | 192 | 16.5% | 532 | 20.1% | ** | 739 | 19.2% |
| 必要時の家庭訪問 | 155 | 13.3% | 464 | 17.6% | *** | 621 | 16.1% |
| 乳健での育児相談 | 187 | 16.0% | 636 | 24.1% | *** | 832 | 21.6% |
| 一時預り保育所 | 227 | 19.5% | 1,182 | 44.7% | *** | 1,424 | 37.0% |
| 乳児・延長・病児保育 | 352 | 30.2% | 294 | 11.1% | *** | 653 | 17.0% |
| 駅近くの保育所 | 62 | 5.3% | 55 | 2.1% | *** | 118 | 3.1% |
| 職場内の保育所 | 317 | 27.2% | 240 | 9.1% | *** | 561 | 14.6% |
| 育休中の人員配置 | 208 | 17.9% | 137 | 5.2% | *** | 348 | 9.0% |
| 育休中の給料保証 | 428 | 36.7% | 163 | 6.2% | *** | 600 | 15.6% |
| 希望職場への復帰 | 144 | 12.4% | 76 | 2.9% | *** | 221 | 5.7% |
| 父親の育休 | 226 | 19.4% | 588 | 22.3% | * | 825 | 21.4% |
| 自由な勤務形態 | 320 | 27.4% | 464 | 17.6% | *** | 790 | 20.5% |
| 子ども世帯の経済支援 | 761 | 65.3% | 1,868 | 70.7% | *** | 2,657 | 69.0% |
| 柔軟な乳健実施法 | 235 | 20.2% | 246 | 9.3% | *** | 483 | 12.6% |
| 柔軟な予防接種 | 235 | 20.2% | 650 | 24.6% | *** | 896 | 23.3% |

表4の他項目は有意差なし, ***: p<0.001, **: p<0.01, *: p<0.05, 仕事の有無の無回答43名

間を考えた乳児健診の時間・方法（柔軟な乳健実施法）」など、仕事に関連した希望が無職者より有意に多かった。

一方、無職者は「子ども世帯の経済支援」、「一時預かり保育」、「夜間小児科リスト」、「乳児健診での育児相談」、「母子健康手帳に、電話相談の番号、助産院、小児科医の情報を載せる（情報掲載母子手帳）」などの希望が有意に多かった。

6. 産後2～3か月までに希望する育児支援サービス（表6）

全体では「夜間診療小児科医」が60.9%、「一時預かり保育」42.6%、「出産施設からの情報提供」37.4%、「夫が育児参加できるような父親の働き方（短時間勤務、在宅勤務など、父親の柔軟な勤務時間）」35.9%、「母乳育児外来」32.5%、「自由に参加できる病院・医院・助産院での育児サークル（育児サークル）」29.8%、「父親の育児休業」29.7%の順に希望が多かった。これらの項目のうち「一時預かり保育」以外は初産婦の方が有意に多かった。

IV. 考 察

日本の少子化対策の環境整備の基礎として

「健やか親子21」が平成12年に開始された。これに基づいて、快適で安全な出産や育児不安の軽減等の課題への取り組みが行われた¹⁾。その5年後の出産・育児の現状と変化について、同様の疫学的調査で比較する全国調査は本研究が初めてである。

1. 育児環境および母親の就労状況の変化

この6年間で育児環境や母親の就労状況は大きく変化していることが本研究で明らかになった。前回調査の後、夫立会いは37%から53%と半数を超えるまでに普及した⁷⁾。しかし、産後の退院先は実家が最も多くその割合は5年前と変わらないにもかかわらず、夫による産後1か月間の家事育児の援助は前回の35%から18%に半減し、親による援助が76%に増加していた。夫はお産には立会うが、産後の家事育児は親に頼る傾向が強くなった実態が明らかにされた。

一方、母親の就労状況は、仕事を続けながら出産する女性が5年間で1/4から1/3に有意に増加し、育児休業後復帰する予定の母親は15%から22%に増加した。有職女性の約半数が妊娠出産を機に退職する状況は5年間で変わらず、専業主婦は10%減少していた。

このような育児環境を背景に、産後1か月間

表6 産後2～3か月に希望する子育て支援

(5つまで複数回答, n=3,852)

| | 平成17年 | | 初産婦 (n=1,980) | 経産婦 (n=1,870) | 初産比較 χ ² 検定 | 平成17年 合計 (n=3,852) | |
|----------------------|-------|-------|------------------|------------------|---------------------------|--------------------------|-------|
| | 人数 | 割合 | | | | 人数 | 割合 |
| 夜間診療小児科医 | 1,271 | 64.2% | 1,070 | 57.3% | *** | 2,340 | 60.9% |
| ベビーシッター紹介 | 141 | 7.1% | 161 | 8.6% | | 300 | 7.8% |
| 児童民生委員 | 59 | 3.0% | 33 | 1.8% | * | 92 | 2.4% |
| 出産施設からの情報提供 | 795 | 40.2% | 646 | 34.6% | *** | 1,439 | 37.4% |
| 24時間電話相談 | 677 | 34.2% | 418 | 22.4% | *** | 1,095 | 28.5% |
| 母乳育児外来 | 708 | 35.8% | 542 | 29.0% | *** | 1,248 | 32.5% |
| 自由に参加可能な施設での育児相談 | 676 | 34.2% | 424 | 22.7% | *** | 1,099 | 28.6% |
| 出産施設からの電話訪問 | 386 | 19.5% | 234 | 12.5% | *** | 619 | 16.1% |
| 必要回家庭訪問 | 579 | 29.3% | 320 | 17.1% | *** | 897 | 23.3% |
| 自由に参加可能な施設での育児サークル | 644 | 32.5% | 501 | 26.8% | *** | 1,145 | 29.8% |
| 父親の交流場 | 118 | 6.0% | 115 | 6.2% | | 231 | 6.0% |
| インターネットによる育児相談 | 256 | 12.9% | 140 | 7.5% | *** | 396 | 10.3% |
| 働いていなくても利用できる一時預かり保育 | 778 | 39.3% | 861 | 46.1% | *** | 1,639 | 42.6% |
| 乳児優先入園制度 | 429 | 21.7% | 366 | 19.6% | | 795 | 20.7% |
| 父親の育児休業 | 569 | 28.8% | 573 | 30.7% | | 1,140 | 29.7% |
| 父親の柔軟な勤務時間 | 676 | 34.2% | 707 | 37.8% | * | 1,380 | 35.9% |

経産回数無回答2名, ***: p<0.001, **: p<0.01, *: p<0.05, 11年は調査せず

に遭遇する産褥・育児に関する心配事、および子育て支援のニーズについて、現状と変化を検討した。

2. 産後1か月間の母親の心配事

今回の調査では前回調査と同様、産後1か月は6割近くの母親が実家へ退院して生活し、94%の母親が親や夫から家事や育児の援助を得ていたが、6~7割以上の母親は睡眠不足で疲労を感じていた。一方、孤独感・焦燥感、育児放棄感など、虐待などにつながりやすい心理・精神的な問題が増加していた⁸⁾。孤独感や焦りは全体で6%であるが、前回調査の2倍になっていた。特に、初産婦の2割が育児を投げ出さなくなったり、4人に1人が育児に自信がなかった。産後1か月間は、母親は新生児の周期の短い生活リズム⁹⁾にあわせて授乳や世話をしなければならず、睡眠不足で疲れていると考えられる。初産婦は経産婦より疲労感を感じており¹⁰⁾、初めての育児への自信のなさや相まって、育児放棄感につながっていると考えられる。

乳房トラブル、会陰疼痛、尿失禁の身体的な心配事も前回調査より有意に増加していた。乳房のトラブルは初産婦の3人に1人、全体で4人に1人おり、産後1か月間で2番目に多い母親自身の心配事であった。母乳育児の推進を図るうえでも退院後の乳房のセルフケアの指導や、母乳外来等での育児指導や乳房のフォローアップが必要であると考えられる。会陰の疼痛を初産婦の5人に1人が心配事にあげており、会陰切開実施率⁷⁾は前回調査と変わらないにも関わらず、会陰の疼痛の心配事は前回より増加していた。特に、初産婦は乳房トラブル、会陰疼痛、疲労等の身体的問題が経産婦より有意に多く、母親自身の問題を多く抱え育児に専念しにくい状況が推察された。出産施設での退院指導だけでなく、産後の新生児訪問指導等で母親の身体的側面のフォローも必要であろう。

有職の母親は、前回調査と同様、無職の母親より孤独感や焦りを感じる人が多かった。社会活動をしてきた者が外に出る機会が乏しくなり、社会から孤立した感じを抱く心理的な状態¹¹⁾と同様であると推測される。

3. 産後1か月間の児の心配事

児の心配事は前回調査と同様、湿疹など皮膚のことが最も多く、次いで母乳不足・哺乳量の心配、不眠・泣きの順に多かった。児の心配事は地域的な先行研究の結果とほぼ同様であった¹²⁾。皮膚と便以外の心配事は前回調査より減少したものはなく、変化なしまたは微増していた。したがって、今後もこれらの心配事の軽減に対する取り組みをさらに進める必要である。また、この上位3項目が退院時の育児指導に含まれることが望まれる。

児の心配事はいずれも初産婦の方が多く、母乳が足りているか心配(43%)し、眠ってくれない(31%)で、泣いてばかりいる(21%)、育児の仕方がこれでよいのか確認したい(25%)等、これらの児の心配事が2~4割以上を占めていた。乳幼児に接する機会が乏しい初産婦は出産後の生理的変化、新生児の特徴や授乳や育児方法がわからず、すべてを心配に感じ、育児不安が高くなる¹²⁾。したがって、入院中から母子同室で、新生児の睡眠⁹⁾と生活リズムに合わせて自律授乳を行い、児の世話の仕方に慣れることによって、育児への自信を少しでも持ち、産後1か月の育児不安が軽減されると考えられる。

4. 産後1か月時の育児支援ニーズ

今回の調査では経済的な支援のニーズが最も高くなり、約7割の母親が望んでいた。これは今回調査で出産を機に仕事を辞めた世帯が約3割と多く、最近の税や社会保障制度の改革に伴い家計の負担が増大したことが要因の一つと考えられる。第12回出生動向調査によると¹³⁾、本研究と同年齢の76~82%の夫婦が理想の予定子ども数が理想子ども数を下回る理由として「子育てや教育にお金がかかりすぎる」ことをあげている。出生前後の就業変化に関する統計¹⁴⁾によれば、出産を機に仕事を辞めた場合、常勤ではなくパート・アルバイトに変わる割合が高くなっているため、経済支援の希望が高かったと考えられる。したがって、若い夫婦にとって経済支援は少子化対策の重要な課題と考えられる。平成18年4月から児童手当が拡大されることになったので、今後の経済的なニーズの動向

が注目される。

自由な勤務形態, 育児休業中の給料保証, 職場内の保育所のニーズは前回調査よりも有意に高くなっていった。これは有職の母親が前回調査よりも増加したためと考えられる。有職の母親の3割前後がこれらのニーズと乳児・延長・病児保育を望んでいた。また, 今回の全対象の3割, 初産婦の約4割が妊娠出産を契機に退職していた。しかし, 無職者も父親の育児休業や自由な勤務形態を希望している者が多いこと, 今後さらに有職者の割合が増加することが考えられ, 今まで以上に育児と仕事が両立できる基盤作りが必要であると考えられる。子育て家庭を社会全体で応援するために策定された少子化社会対策大綱の重点施策として, 子ども・子育て応援プランが平成16年12月に策定された¹⁵⁾。その中で育児休業制度の定着, 男性の子育て参加促進に向けた取組の推進, 再就職準備支援の推進, 一時・特定保育所の推進などの具体的な施策があげられており, 「健やか親子21」の施策と有機的な連携をしていくことが母親のニーズに応じた育児支援になると考えられる。

一方, 電話育児相談リスト, 24時間電話相談, 乳児健診や保育園等での育児相談など, 育児相談に関するニーズは前回調査より順位がやや低下した。しかし, 前回調査と同様に, 初産婦は育児相談に関するニーズが高く, 経産婦は産褥・家事ヘルパーや一時預り保育所など, 育児労働のサポートに関するニーズが高かった。特に, 無職の母親は, 有職の母親の2倍に当たる4割以上が一時預かり保育を希望していた。子育て中の専業主婦25,000人の調査¹⁶⁾によれば, 専業主婦の母親は自分の時間を作ることは難しく家庭内での育児の負担感や閉塞感が高くなりやすいため, 41%の母親が一番欲しいのは子どもから解放される自由時間であるとの報告と一致する。したがって, 月1回でも一時保育等で短時間でも子どもから離れて自由時間を持つことは, 6割を占める無職の母親の育児不安を軽減し楽しい子育てに役立つと考えられる。

5. 産後2～3か月までに希望する育児支援ニーズ

産後1か月時の育児支援ニーズは前回調査と同様に, 夜間診療の小児科医に関する情報提供

を, 初産婦共に半数以上の母親が望んでいた。産後2, 3か月に希望する育児支援の中では最も多く, 小児科の24時間診療のニーズが高いことが推測される。ただし, 産後1か月の育児支援ニーズは26項目中5項目まで, 産後2・3か月は16項目中5項目まで選択する複数回答のため, 同じ項目について産後1か月の割合と単純に比較はできない。しかし, 出産施設からの情報提供や育児相談, 母乳育児外来など, 3～4か月の乳児健康診査までの産後期に施設からの支援が必要とされていること, 外出や屋外活動への参加, 父親に関するニーズが高いことがうかがえる。地域や家族が出産育児する母親を支援していく環境づくりが更に必要とされる。

(本研究は平成17年度厚生科学研究費補助金(子ども家庭総合研究事業)によるものである。)

文 献

- 1) 健やか親子21検討会報告書—母子保健の2010年までの国民運動計画—。小児保健研究 2001; 60:5-33.
- 2) 松岡治子, 行田知子, 今関節子, 他. 妊娠期・産褥期・育児期の母親の不安について—日本版STAIを用いた横断的研究—。母性衛生 2002; 43:13-17.
- 3) 渡部尚子, 島田三恵子. 利用者から見た望ましい出産のあり方に関する研究. 平成11年度厚生科学研究子ども家庭総合研究事業報告書(第3/6) 2000:357-412.
- 4) 島田三恵子, 渡部尚子, 神谷整子, 他. 産後1か月間の母子の心配事と子育て支援のニーズに関する全国調査—初産婦別, 職業の有無による検討—。小児保健研究 2001; 60:671-679.
- 5) 厚生労働省大臣官房統計情報部平成15年人口動態統計保管統計表第1表出生数, 出生の場所・出生時の立会者・都道府県別. 2005:1-10.
- 6) 縣 俊彦. 基本医学統計学—EBM・医学研究・SASへの応用. 東京:中外医学社, 2005:228-235.
- 7) 島田三恵子, 杉本充弘, 縣 俊彦, 他. 科学的根拠に基づく快適な妊娠・出産のためのガイドラインの開発に関する研究. 平成17年度厚生科学研究子ども家庭総合研究事業総括研究報告書.

- 2006 : 1-87.
- 8) 小林美智子：母子保健と虐待発生予防. 母子保健情報 2005 ; 50 : 80-50.
 - 9) Shimada Mieko, Takahashi Kiyohisa, Segawa Masaya, et al. Emerging and entraining patterns of the sleep-wake rhythm in preterm and term infant. *Brain & Development* 1999 ; 21 : 468-473.
 - 10) 國分真佐代, 飯田美代子, 今井理沙, 他. 出産後6か月までの母親の身体活動と自覚疲労の推移. 母性衛生 2004 ; 45 : 260-267.
 - 11) 牧野カツコ. 乳幼児をもつ母親の生活とく育児不安>. 家庭教育研究所紀要 1982 ; 3 : 34-56.
 - 12) 関島英子, 齋藤益子, 木村好秀, 他. 1カ月の乳児をもつ母親の健康感と対児感情に関する検討. 母性衛生 2006 ; 47 : 62-70.
 - 13) 国立社会保障・人口問題研究所人口動態研究部. 第12回出生動向基本調査(結婚と出産に関する全国調査)の夫婦調査の結果概要. 2002.
 - 14) 厚生労働省大臣官房統計情報部人口動態・保健統計課. 「出生前後の就業変化に関する統計」の概況. 厚生指標 2005 ; 52 : 43-52.
 - 15) 厚生労働省雇用均等・児童家庭局. 「少子化社会対策大綱に基づく重点施策の具体的実施計画について」(子ども・子育て応援プラン)の決定について. 2004.
 - 16) 高江幸恵. 【新しい時代の小児保健活動】小児保健のトピック子育て専業主婦の子育て支援. 小児科臨床 2000 ; 53増刊 : 1191-1197.

43168号 (日刊)



朝日新聞社 2006年
〒104-8011 東京都
発行所 中央区築地5丁目3番2号
朝日新聞東京本社
電話 03-3545-0131

夫の半数、出産立ち会い

全国4施設 産後は実家の親頼み

夫の2人に1人が出産に立ち会っているが、逆に産後の手伝いは減り、実家の親頼り。そんな傾向が、厚生労働省研究班(主任研究者＝島田三恵子・大阪大教授)の出産に関する全国調査でわかった。仕事を続けながら出産する女性は増え

ており、子育て支援には夫の就業のあり方の見直しも必要であることが、改めて浮かび上がった。調査は、快適な妊娠・出産のための指針作りの一環として実施。05年9～12月に全国47都道府県の454施設(大学病院、一般病院、診療所、

助産所)で出産した、産後1カ月の母親38852人が回答した。平均30・5歳で、初めての出産は50・3%だった。分娩室で、医療関係者以外で出産に立ち会った人複数回答は夫が52・6%。99年の前回調査の36・9%から15・7%増

えた。親も9・8%から12・1%に増加。だれも立ち会わなかったのは40・8%で16・5%減った。「父親としての実感が深まる」「妊婦が安心して産む」などを理由に希望する人が増え、また、立ち会いを受け入れる施設が増えたことなどが、背

景にあるとみられる。退院先は、実家が56・9%、自宅が38・8%で前回とほとんど変わらなかったが、産後1カ月間に育児や家事を主に手伝ってくれたのは、親が60・2%から76・0%に増えたのに対し、夫は35・4%から18・0%に半減。親に頼る「孫育て」の現状が浮き彫りになった。希望する子育てサービス(26項目中5項目を選択)は、①子どもがいる家庭の優遇税制、保育料の軽減などの経済的支援

選手にナニを... 迷った... 終盤で... (中小路徹)

14 17 18 19 34 35

(69・0%) ②夜間診療

の小児科医(54・2%)
働いていなくても利用できる一時預かり保育(37・0%)の順に多かった。(桜井林太郎)

は今後、警視庁や国交省の聴取に積極的に対応するとともに遺族とも面会する方針という。13日には港区長と面談するほか、住民説明会にも出席する予定。

大岡 信

(俺はウマイ)三回唱え息を詰め引きたるメスは皮脂までを裂く
京 表 楷

『ドクターズ・ハイ』(平一八)所収。医療の第一線で活躍している外科医(中の歌で「皇太子われと同じ四十」とある)の第一歌集。「繊細な問題を含む医療現場を詠んだ歌が数多く」あり、発表を迷った歌も多かったが、推敲の上「相当数」を入れたと「あとがき」にいう。たしかにかなり大胆に医療現場を詠んだ歌もあるが、自然に詠めてしまう感のある作者。「愁嘆場修羅場土壇場断末魔無尽蔵なる外科医を愛す」

BOSSE
Sound from U.S.A.

44782号 (日刊)



©朝日新聞社 2006年
 大阪市北区中之島3丁目
 発行所 2番4号 〒530-8211
朝日新聞大阪本社
 電話 06-6231-0131

週61時間労働・当直月17回 産科医、過酷さ鮮明

厚労省調査

産科医は週61時間労働で、当直は月17回、休みは年50日ト。そんな労働実態が、厚生労働省の研究班の調査で明らかに

なった。ほとんどが当直明けも続けて働いており、調査担当の杉本充弘日赤医療センター産科部長は「産科の救急診療体制は崩壊しつつある。集約化や地域の助産所との連携などの対策が必要だ」としている。

昨年10、12月、産科または周産期医療を掲げる全国473施設(26大学病院、208一般病院、166診療所、73助産所)から回答を得た。これらの施設の04年の出産総数は計16万4227人で、全国の出生数の14.8%。

産科医の過平均労働時間は61.0時間。大学病院65.1時間、一般病院59.5時間、診療所60.0時間だった。当直回数

は月平均16.7回で、大学病院5.2回、一般病院6.6回に対し診療所は21.7回と多かった。96.9%が当直明けに継続して勤務していた。年間休暇は平均50.4日で、それぞれ57.9日、68.9日、38.6日だった。

常勤医師の平均は大学病院7.5人、一般病院3.5人、診療所1.4人。「さらに必要とする人数」を聞いたところ、それぞれ3.1人、1.5人、0.5人との回答だった。(桜井林太郎)

国土交通次官 安富氏起用へ
 国土交通省は18日、佐藤信秋国土交通事務次官



初出産前に自治体や病院が開く講座に夫婦で参加するのもいい。スタッフの説明を受け、赤ちゃん人形やお風呂の練習をする参加者—東京都杉並区の杉並保健所で

あなたの安心

起きた家電製品の火災のち、延長コードも使用電力を誤れ

だといふ妻たちに「その後」を

東京・渋谷で、夫が立ち会った

分は美家の母親が補っていた。立ち会いの増加は、受け入れ施設の充実なども理由のようだ。

では、夫が立ち会った人は52.6%。前回99年の36.9%から大幅に増えた。ところが、その1カ月間に「育児見と家事を主に手伝ったのは夫」は前回の36.4%から18.0%に半減。減少分は美家の母親が補っていた。

いまも夫の立ち会いは珍しくない。産後1カ月の母親約4千人を対象にした厚生労働省研究班(主任研究者「島田三恵子・大阪大教授」)の09年の全国調査

出産に立ち会った夫が増えています。「父親の美観が深まる」「妻が安心できる」ためのようですが、肝心なのはその後の子育て。乳幼児2人の我が家もそうですが、不満に思ふ妻は少なくありません。(櫻井林太郎)



子ども

育児分担し、妻なごませて

自分の生活のここが不満

| | |
|-------------|-------|
| 自分の時間がない | 51.6% |
| 太り気味 | 49.3% |
| お金がない | 44.4% |
| おしゃべりができない | 30.9% |
| 子育てがうまくいかない | 29.4% |

■幼児のママは

元子育て雑誌編集長の高江幸恵さんが02年の読者アンケートを集計。無作為抽出した1千人が複数回答

出産立ち会った夫 その後は

聞いてみた。2歳児を育てる主婦(37)。「感動したと喜んでた。子どもの面倒をみてもらってくれず泣かれるとすぐに妻のおとに戻ってくる。「疲れが倍増する。自分でどうすればいいか考えて。私たて試行錯誤で子育てしているよ」

1歳2カ月の男児をもつ主婦(38)もそう。けんかしたとき(40)は「子ども面倒をみてくれる」と羨望し。「週末をそれぞれに当たり前。こちらは毎日1人で家事もしている」と思う。子どもをうまく寝かせ、夫のワイシャツをアイロンがけするとき夫は平気でテレビを見ている。「少なくとも自分のことくらいやってよね」

別の主婦(42)は「男児が1歳半になると、夫(39)はオムツ交換もしたくない。お風呂に入るときは自分のパンツやシャツ、靴下を散らかす。「もう期待しないようにしている」

男性にとってこわい話がある。菅原ますみ・お茶の水女子大教授(発達心理学)は未婚期の愛情が結婚年数でどう変わるかを調べた。夫から妻への愛情は時間がたつても高々安定する傾向がある。一方、妻の愛情はしばらく変わらないが、やがて急低下。分析の結果、「乳幼児期の育児への夫の協力度が影響している」と結論づけた。

妻たちは何を望んでいるのか。妻のアンケートでは「自分の時間がない」が最多。4割が大人同士の会話をせず、子どもだけと過ごして一日が終わることがある、という。

育児中の公務員の女性(33)は「週末の11〜2時間、4カ月の長男を夫(33)にまかせる。本屋でぶらぶらしカフェでゆめこの通ひするのが楽しい。「ぶだん世の中と隔離されている。どんな本が読まれているのか、雑誌のタイトルを見るだけで気持ちよく和らぐ。非日常の時間を少し持つだけで全然癒えますよ」

立ち会い出産に感動した冒頭の永さんは「2人で大切に育てていこうという気持ちが一層強くなった」と喜ぶ。世のお父さん、頑張ってください。

毎月最終週は投稿でつくる「言わせてください。今月のテーマは「どうしてる? パパの子育て」。お便りは下記のおて先へ。

春、新紙面 「子ども」は毎週土曜日に変わりました。子育て情報をお届けします。「おいしさを発見」「酒にまじわれば」は水曜に移りました。

「陣痛恐怖」案ずるより… 育児フアイル

現代の陣痛の理由がある。そのひとつ、痛をあまりとられた世代ごいよとよて。養いが「薬を使つていい」。背中から所的は腰外直接の骨はなを押し出すで、頭を引つが、倍くらいたる医師のいがある。ので「計画分娩」陣痛は、耐それに越した陣痛を敵対みを強く感じ子宮から出る世に送り出



●「輝ちゃん、おはあちゃんの宝物だよ」という祖母に、「おはあちゃん」

無料進呈 詳しい案内書

生 定年